

# 目指せ、アジアの頂点

## ボクシング 高1生2人が出場

アマチュアボクシングの16歳以下アジア王者を決める「ASBCジュニアボクシング選手権大会」＝15～21日、カザフスタン・シムケント＝に、川西市の高校1年生が出場する。丸田陽七太選手(15)と岩井尚斗選手(15)。同じジムで競う2人は、初の国際試合を前に「やるからには優勝」と意気込んでいる。



アジア選手権に挑む丸田陽七太選手(右)と岩井尚斗選手(左)川西市大和西1丁目

川西市の森岡ボクシングジム。拳がサンドバッグをたたく乾いた音が響く中、2人は最後の調整を続けている。丸田選手は52<sup>kg</sup>級、岩井選手は48<sup>kg</sup>級に出場。9日に味の素ナショナルトレーニングセンター(東京都北区)で他の代表選手4人と合流し、12日にカザフスタンへ出発する。

ともに右利きで、接近戦でも距離をとっても戦えるボクサーファイタータイプだが、経歴は対照的だ。

丸田選手は身長174<sup>cm</sup>。6歳からボクシングを

始め、数々の国内大会を制してきた。戦績は39戦34勝5敗。昨年も日本ボクシング連盟主催の第1回全日本幼年大会・52<sup>kg</sup>級で優勝し、「誰かを目指すより、自分が目標とされる選手になりたい」と、世代のトップを走る。

岩井選手は身長168<sup>cm</sup>。小学5年生の2月、ボクシングと出会った。神戸市から川西市へ転校したが、うまくなじみず、「ケンカばかりしていました」。両親の勧めで森岡ジムへ。まず礼儀を大切にす森岡和則会長(40)の指導のもと、心も落ち着き、めきめき実力をつけた。戦績は24戦16勝8敗。昨年の幼年大会では46<sup>kg</sup>級で準優勝だった。

今回の派遣は、これまで

の戦績をもとに2月末、日本ボクシング連盟が決めた。森岡会長は「丸田は相手の特徴、戦術を試合中に分析して的確に攻める。試合への気持ちの持って行き方もうまい。岩井はフットワークが巧み。足を使って相手を翻弄できれば面白い」と期待する。

2人は6日に同じ関大北

陽高(大阪市東淀川区)に入学。直後の長期遠征になるが、「今は勝つイメージしかない。試合前の雰囲気から楽しみたい」と丸田選手が言える。「僕にとって大きなチャンス。絶対に勝って結果を残す」と岩井選手。減量は順調で、体調もいい。「大きなお土産」を持って帰るつもりだ。(山下弘展)